



# 地球環境研究センター ニュース

Center for Global Environmental Research

<通巻第19号>

vol. 3 No. 2

## ■目次■

- 「GRIDワークショップ」開かれる
- 【パナソニック】スーパ-コンピュータ運用状況
- 地球環境研究センター活動報告

研究管理官 原沢英夫  
観測第2係長 和田篤也

## GRIDワークショップ開かれる

地球環境研究センター データベース担当研究管理官  
原沢 英夫

昨年5月に国連環境計画（UNEP）／地球資源情報データベース（GRID）のつくばセンターが地球環境研究センターに設立されてから1年が経過し、この4月からGRIDの保有する地球環境データの提供など、GRIDセンターとして本格的活動を開始した。設立1周年を契機にこれまでの活動を振りかえるとともに、今後拡大・強化すべき点について専門家の意見を聞く“場”を設け、同時に現在各地で進められている国際機関の設立・活動状況について意見交換を行うべく、平成4年5月21日（木）午後、当研究所において、GRIDワークショップを開催した。

以下にワークショップの概要を示す。

まず、当センターの西岡総括研究管理官からワークショップ開催の趣旨説明があり、今後とも情報交換を進めネットワークを構築することの必要性を強調した。またGRID担当の原沢から、これまでのGRIDの活動状況と今後の事業計画について

紹介があるとともに、収集した地球環境データやモデルの一覧、GRIDディレクター会議について、配布資料をもとに説明があった。

一方、衛星データの処理・応用技術の研究を行っている横山隆三氏（岩手大学）からは地球規模研究における衛星データの役割について研究事例をふまえた講演があった。また菅雄三氏（広島工業大学）により衛星データの多彩な応用事例の紹介があった。衛星データの活用が地球規模の環境研究に不可欠なことは確かであり、実際GRID地球環境データの多くが衛星データを用いて作成されている。これらデータが処理・加工されて出力されるカラー画像が、如何なる環境問題に応用し得るかが常に問題となるが、両先生の講演は、どのようにすれば衛星データを環境監視や地域の環境評価、アセスメント、地域計画等に有効活用し得るかに関する貴重な知見であった。

（次頁へつづく）

---

 <GRIDワークショップ>
 

---

中山幹康氏（宇都宮大学）からは、UNEPに勤務された経験から、GRID-つくばの今後の活動について、講演があった。GRIDの機能に対する認識をUNEP内部や日本国内で高めること、開発途上国への地理情報・リモートセンシング技術の普及やトレーニングによる技術移転を促進すること、世界に提示・提供できるようなデータを作成すること及び開発途上国におけるデータ作りを支援することなどが指摘された。

現在大阪と滋賀でUNEP国際環境技術センターの設立準備が進んでいる。我々と同じくUNEP傘下の機関になるということもあり、当センターでもその動向について注目していたところである。大阪、滋賀のUNEPセンターの設立準備を担当している山本攻氏（(財)地球環境センター）と井手慎司氏（滋賀県国連環境計画施設開設準備室）の両名から、センターの計画全般及び各UNEPセンターのもつ特徴について説明があった。その中で、国際機関の設立に係る問題とともに、各センターのアイデンティティを如何に構築していくか、また当GRIDセンターとの協力関係をつくることの必要性が強調された。

環境面でユニークな国際的活動を行っている北九州市は、現在国際環境研究協力センターの計画を進めており、堀梯二氏（北九州市環境局）から従来の経緯と計画全体について講演があった。また、昨年20周年を迎えた名古屋にある国連地域開発センター（UNCRD）のアントニオ・フェルナンデス氏からUNCRDにおける環境プロジェクトの概要とその中でのデータ・情報の取扱いについての話題提供があった。

各講師による話題提供の後には総合討論が行われ、参加者全員のGRID-つくばへの期待・要望や、今後国内におけるネットワークづくりに対する意見等が出された。最後に当研究所の久野主任研究企画官が、講演者、参加者に対する謝辞と今後のGRID-つく

ばに対する支援をお願いして、その幕を閉じた。

半日のワークショップであったため、各講師の先生方の講演時間が20分と短いものになったが、GRIDに対する多くの方々から様々な意見が聞けたこと、あるいはUNEP国際環境技術センターなどについての意見交換ができたことなど、有意義なワークショップであった。

本ワークショップの詳細については、後日報告書としてとりまとめる予定である。



▲GRIDワークショップ開催の様子

<プログラム>

- |                                    |                   |               |
|------------------------------------|-------------------|---------------|
| 「地球環境研究におけるGRID-つくばの役割」            | 地球環境研究センター総括研究管理官 | 西岡秀三          |
| 「地球環境研究におけるリモートセンシングデータの役割」        | 岩手大学工学部教授         | 横山隆三          |
| 「UNEP/GRIDに対する期待」                  | 宇都宮大学助教授          | 中山幹康          |
| 「地球環境研究におけるリモートセンシングデータとGISデータの利用」 | 広島工業大学助教授         | 菅 雄三          |
| 「GRID-つくばの事業計画」（デモンストレーション）        | 地球環境研究センター研究管理官   | 原沢英夫          |
| 「UNEP国際環境技術センター大阪の役割」              | (財)地球環境センター       | 山本 攻          |
| 「UNEP国際環境技術センター滋賀について」             | 滋賀県国連環境計画施設開設準備室  | 井出慎司          |
| 「北九州国際環境協力センターについて」                | 北九州市環境局           | 堀 梯二          |
| 「国際協力における情報の役割」                    | 国連地域開発センター(UNCRD) | アントニオ・フェルナンデス |
| 総合討論「GRIDによる国際協力」                  | 司会： 国立環境研究所       | 安岡善文          |

【システム・レポート②】

## スーパーコンピュータ運用状況

本年4月からスーパーコンピュータシステムの利用が開始された。それに加えて今般、当研究所のネットワークの利用が開始されたところでもある。これにより、当研究所内に加え、外部からのスーパーコンピュータへのアクセスが実質上可能となった。また、ネットワークの利用開始に先立ち、5月29日に利用説明会が開催された。

5月末日現在、システム運用開始から約2ヶ月が経過したが、この間のシステム利用状況は以下のとおりである。

	平成4年4月	平成4年5月
セッション数	1,565回	1,110回
セッション時間	1,757時間	1,238時間
JOB数	947本	594本
CPU使用時間	273時間	295時間
利用者数	22名	28名

現在のところシステムの利用状況に大きな変動は見られないものの、今後はさらに利用者の増加や使用時間の増加が予想されることである。また、短期保存ディスク（WHDK、WNDK）について、その領域使用率がかなり増加傾向にあることから、今後は厳密な管理を行うと同時に、適正な利用を図ることを考えている。

ソフトウェアに関しては順次講習会等の開催を考えており、6月に入ってから1日から5日までの5日間に「画像解析ソフトウェア：ERDAS」及び「地理情報システムソフトウェア：ARC/INFO」の講習会を開催したところである。

また、システムの適切な運営を図ることを目的とし、専門家の意見を反映する場としての「スーパーコンピュータ関連研究ステアリンググループ」を昨年度に引き続き設置するとともに、ユーザーレベルの意見を反映する場として「スーパーコンピュータ利用ワーキンググループ」も併せて設置した。それに加え本年度は、ユーザー間の意見交換を行う場である「ユーザーミーティング」を新たに設けることも考えている。「スーパーコンピュータ利用ワーキンググループ」については第1回目の会合を5月12日に開催したところである。

今後は、10月からの本格運用に向けて、各種利用規定及び利用環境を整備するとともに、当研究所による地球環境研究へのより一層の推進に貢献するため、スーパーコンピュータシステムによる研究支援のあり方を十分検討していくこととしたい。

（観測第2係長 和田篤也）

地球環境研究センター活動報告

1992. 5.18 平成4年度地球環境モニタリング検討会 生物モニタリング分科会  
第1回生物学的多様性モニタリングワーキンググループの開催  
<参加委員>  
井上 勲 (筑波大学生物科学系) 井上民二 (京大大学生態学研究センター)  
川井浩史 (北海道大学理学部) 出口博則 (高知大学理学部)  
戸部 博 (京都大学教養部) 西平守孝 (東北大学理学部)  
林 良博 (東京大学理学部) 樋口広芳 ((財)日本野鳥の会研究センター)  
矢原徹一 (東京大学教養学部)
- .19 地球環境研究等企画委員会-平成4年度第1回モニタリング小委員会の開催
- .21 平成4年度地球環境モニタリング検討会 生物モニタリング分科会  
第2回生物学的多様性モニタリング専門分科会の開催  
<参加委員>  
岩槻邦男 (東京大学理学部) 大島康行 (早稲田大学人間科学部)  
川那部浩哉 (京都大学理学部) 瀬田信哉 (環境庁自然保護局)  
千原光雄 (日本赤十字看護大学) 安野正之 (環境庁国立環境研究所)
- .21 「GRIDワークショップ」開催 (1,2頁に関連記事)  
<参加者>  
アントニオ・フェルナンデス (国連地域開発センター(UNCRD))  
井出慎司 (滋賀県国連環境計画施設開設準備室)  
菅 雄三 (広島工業大学) 中山幹康 (宇都宮大学)  
堀 梯二 (北九州市環境局) 山本 巧 ((財)地球環境センター)  
横山隆三 (岩手大学)
- . 6. 5 大阪府の地球環境問題についての取り組みについての調査のため、  
西岡秀三 総括研究管理官、和田篤也 観測第二係長、  
大阪府環境保健部環境局へ出張
- . 6 環境月間の行事の一環として実施された国立環境研究所一般公開にて、  
地球環境研究センターの紹介パネルを展示

【編集後記】

地球環境研究センターニュース第19号をお届けします。

ブラジルで地球サミットが開幕した。日本の宮沢首相はこの会議で何を要求され、  
何ができるのか？現在審議中の国連平和維持活動(PKO)協力法案も重要だと思う  
が、地球環境問題は世界の中の日本がいかにあるべきかを問われる大きな問題でもあ  
る。サミットでの日本の活躍に期待する。

編集・発行 環境庁 国立環境研究所  
地球環境研究センター  
連絡先 観測第2係(和田)

〒305 茨城県つくば市小野川16-2  
TEL. 0298-51-6111 EXT. 374  
FAX. 0298-58-2645

このニュースは、再生紙を利用しています。